

2024年2月14日

## 日本はジンバブエの脆弱な住民に対し新たに食糧支援を提供

日本政府は本日、国連世界食糧計画（WFP）に対し、ジンバブエの社会的弱者への食糧支援として、136万米ドル（2億円）を拠出した。

今年10月から来年3月まで農業生産の端境期において、日本米を含む穀物、豆類、植物油の合計1,304トン、食糧不足のコミュニティに届ける物で、脆弱な家庭が遅滞なく食糧を受け取ることになる。

「我が国は、緊急食糧支援を必要とするコミュニティ支援に尽力している。この支援が、脆弱な立場にある人々が、危機を乗り越える一助となることを願っている。」と山中晋一駐ジンバブエ日本大使は述べた。

農業生産の端境期支援を通じて、WFPは家庭の食料ストックの枯渇の緩和、有害な対症療法を最小限に抑え、最も脆弱な人々が食料不安に陥るのを防ぐための政府による食料不足の緩和戦略を補完する。

WFPのフランチェスカ・エルデルマン代表は、「今回の資金供与は、飢餓を緩和し、最も困窮している人々の生活を改善するための私たちの取みに大きく貢献するもので、日本政府の寛容な対応に感謝する。今後、エルニーニョの影響により、食料支援を必要とする人々が増える可能性がある。日本の貢献は、私たちが地域コミュニティを確実に支援する上で大いに役立つものである。」と述べた。

エルニーニョ現象は、地域全体の食糧安全保障等に重大な影響を及ぼす見込みで、被害を受ける地域コミュニティにおいては、収穫量の減少、生計を得る機会の減少、2024年から2025年にかけて、より早く深刻な端境期が到来することになる。

日本はWFPのジンバブエ支援の長年のパートナーであり、2019年以来、日本はWFPの食糧支援と脆弱なコミュニティの強靱化に2,550万米ドル以上を拠出してきた。

# # #

(署名式の状況)



署名式に臨む本使、エルデルマン当地WFP代表



E/N等を交換する本使とエルデルマン当地WFP代表